

平成二十九年八月投句

しほからの影に秋立つ気配あり

戦闘機一直線に峰雲へ

一輪が咲き初めてをり露地の萩

ダンゴ虫のろのろ歩く残暑かな

バス降車ボタンを押して盆の僧

千切れたる翅をさかんに秋の蝶

秋立つやここに出会ひし頃思ふ

戸を閉てて無為なるままに秋暑し

水打ちてついと暖簾をくぐりけり

勝利

書かむとす漢字忘れて秋暑し

山査子のカクテル色の織女星

隈笹のふち色白く秋立ちぬ

虫を食む蜥蜴ひくひく動く腹

野分波出入りの舟のなき港

孫送り届け残暑の家路かな

光子

真理子

由紀子